



さくら

令和4年1月7日号

桜小学校長 発行

<http://sakura-e.yatomi-schoolnet.jp/>

今年もよろしくお祈いします！

明けましておめでとうございします。

今年もよろしくお祈いします。

さて、新年になりました。冬休みはいかがお過ごしてでしたか？



昨年同様、引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、さまざまなお祈いをさせていただくと思ひますが、深いご理解と温かいご協力をいただきますようお祈いします。

【2学期終業式・校長講話より】

皆さん。夏休み明けに話した二つのことを覚えていいますか。

一つ目は、オリンピックの話とともに「感謝」について話しました。普段の生活はもちろんのこと、2学期に行われるたくさんの方の行事などで、どんな人に支えられているのかを考え、感謝しながら生活するようお祈いしました。皆さんがよく使っている言葉、「ありがとう」が学校中にあふれることを願いました。どうでしたか？私は、いろいろな場所で皆さんが「ありがとう」と言っている姿を見かけましたし、感謝の気持ちを忘れずに行動している姿も見かけました。皆さんののおかげで、笑顔で生活できました。ありがとう。

二つ目は、笑顔の種を育てることです。2学期には、いろいろな場面で皆さんの素敵な笑顔を見ることができました。また、友達に優しく、そして友達と協力して取り組んでいる姿をたくさん見ることができました。これからも引き続き思いやりの心をたくさんもって、人に優しく接することを期待しています。そして、多くの素敵な笑顔を見られることを楽しみにしています。

それから、もう一つお話をします。命の大切さについてです。11月に話したことを確認します。命は一つしかありません。ゲームオーバーしてもリセットすれば復活するのは、ゲームの中だけでのこと、実際の命は絶対に復活しません。悩みを一人で抱え込んでしまつて、思い詰めて取り返しのつかない行動をとってしまうことは何としても避けたいものです。

自分の命、友達の命、自分の周りの人たちの命。この世に一つずつしかない、一人一つの大切な命。その大切さについてしっかり考えてほしいと思ひます。

【3学期始業式・校長講話より】

皆さんは、「一年の計は元旦にあり」ということわざを聞いたことがありますか？これは、一代で中国地方をほぼ統一した戦国武将である「毛利元就（もうりもととなり）」の言葉です。

一年の計は春にあり

一月の計は朔（ついたち）にあり

一日の計は鶏鳴（けいめい）にあり

朔（ついたち）とは、その月の初めの日。鶏鳴とはその日の朝、一番鶏が鳴く、早朝のことです。そしてこの毛利元就の言葉は、こういう意味になります。

「新しい一年の計画は、その年の初めに、月の計画は月の初めの日に、そして、今日の計画は、朝早くにたてる。」さらに毛利元就が言いたかったのは、元旦、月初めの日、その日の早朝に計画を立てるだけでは意味がない。元旦、朔（ついたち）、鶏鳴からスタートし、計画を実行していきなさいとも言っています。

そこで、3学期は二つ（笑顔と目標）の話をします。

一つ目は、笑顔の話です。4月から話をしていますが、学年が終わる3月に桜小学校がたくさんの方の笑顔があふれるように、一人一人が引き続き笑顔の種を育ててください。友達に温かい・優しい言葉をたくさんかけてください。それが、肥料になります。

二つ目は、先ほど話した今年の目標についてです。元旦は過ぎていますが、今からでも遅くはありません。4月に新しい学年を迎えるにあたって、自分がどうなっていたいのかを思い浮かべ目標を立ててください。一年の始まりに目標を決めることは、本当に大切です。目標を決めないと、今年も何の成長もなく、去年と同じ一年になってしまいます。今年こそは！と、年始めに一年の目標を決めて、大切な一歩を踏み出して下さい！簡単なことでも大丈夫。三日坊主でも一日休んでまた三日坊主を続ければ大丈夫。忘れずに実行してみてください。

